

議論のポイント(案)

1 建設産業の期待役割

社会インフラや良質な住宅等の整備
地域の維持、安全・安心の確保
経済の発展・雇用を支える地域の基幹産業

2 本県建設産業が抱える課題

工事品質の更なる向上
技術力の継承と人材確保・育成
建設需要の変化への対応
地域社会の維持
経済・雇用への影響 など

3 検討テーマ

(1) 経営力の強化

県ではこれまで、建設業相談窓口、経営セミナー開催、コンサルタント派遣、経営多角化支援（補助金）などの事業を行ってきた。

県内建設業が将来に渡って継続していくためには、多様化する民間工事ニーズへの対応など新しい市場を自ら獲得していくことが重要と考えられるが、そのための支援策としてどのような取組みが有効か。

(2) 人材の確保・育成

労働人口が確実に減少することを見据え、他産業との差別化を図り、建設産業への入職を促進するためにはどのような取組みが必要か。

県政モニターのアンケート結果等を踏まえると、小さいうちから建設業がどんなことをしているのか知る機会を提供することが大切であると考えられる。進路を決める前の児童・生徒を対象として、建設現場見学や就業体験を行うと効果的と考えるがどうか。

県政モニターのアンケート結果等を踏まえると、建設現場はきつい・危険というイメージや男の職場という印象が強い。女性でも活躍できる仕事があることのPR、週休二日制や快適トイレ導入など環境改善の推進が重要であると考えているがどうか。

女性やシニア、外国人の雇用拡大の可能性についてはどうか。

(3) 技術力の向上

若い技術者・技能者の離職を防止し建設業への定着を図るには、キャリア形成や技術力養成が重要と考えられるが、これらにどう取り組むか。

県では現在、玉掛け・クレーンや不整地運搬車等の技能講習の受講に対して助成する事業を行っている。国等の関係機関との連携を図りながらどのように取り組むか。

ICT等の技術の進展により施工のあり方そのものが大きく変化することが予想される。県内建設工事への新技術導入を支援していくことを検討しているが、どのような取組みが有効か。また、新技術の導入により女性やシニアの活躍の場を増やすことは可能か。

(4) 地域貢献の促進

地域の維持、安全・安心の確保のため、地域に精通した担い手を確保することが重要であると考えられるが、どのように取り組むか。

県ではこれまで、高校生等を対象に、インターンシップ及び技術検定試験準備講座(2級土木施工管理、2級建築施工管理)を実施してきた。地元建設業への入職をさらに促進するめ、これらの事業に加えて、高校生(建設課程7校)・教員を対象とした現場実習や職業体験学習等に対しても支援することにより取組みを強化することを検討しているがどうか。